

# 第53号

## 社協だより

### 今年一年を振り返り

### 大規模災害に思う

発行日：平成30年3月28日

発行所：社会福祉法人喜界町社会福祉協議会

〒891-6201

喜界町赤連22番地（老人福祉センター内）

TEL 65-0887・0449

<http://kikai-shakyo.org/>

毎年1月17日は「防災ボランティアの日」で、前後3日の計7日間は「防災ボランティア週間」と定められている。これは阪神・淡路大震災にちなんで定められた。

平成7年1月17日午前5時46分「マグニチュード7.2」の地震が発生。「阪神・淡路大震災」と呼ばれることになった。都市直下型地震で死者6,400名、負傷者43,700余名にのぼる甚大な人的被害をもたらした。その他にも住宅の被害は全壊が約10万5千棟、半壊が14万4千棟にのぼり、交通関係、水道、電気、都市ガス、電話回線などのライフラインも潰滅的な被害を受けた。

被害が極めて甚大かつ広範なもので、技術的に把握が困難なものも多い中で、平成7年2月14日現在把握された被害状況は概算で約9兆6千億円と推計された。官民あげての復興活動が展開される中、被災地でのボランティア活動の重要性も飛躍的に高まった。活動に参加した人の数は1日平均2万人超、3ヶ月間で延べ117万人ともいわれた。ボランティアに関わった人々の中には精神的に大きなダメージを負ってしまった人も多かったという。被災した人々のケアだけでなく、ボランティアの心のケアも重要であることが明らかになった初めてのケースになったと言われる。

今年3月11日、東日本大震災は発生から7年を迎えた。犠牲者は2万2千人以上、復興は道半ば、全国で約7万3千人が今なお避難生活を送っている。「とてつもない試練だった。」「絶望の淵に立たされた。」「震災で学んだことを忘れてはいけない。」等被災した人たちの心の傷は深く、癒える時がくるのだろうか。

今私達の身近でも南海トラフ地震や津波、噴火、スーパー台風、豪雨など大規模災害の危険が高まっていると言われている。大規模な災害が起きたら、自分の命を、大切な人の命を守れるだろうか。日頃の防災・減災への意識が大切だと思う。社会福祉協議会では、赤十字防災セミナーやボランティア講座、ボランティア養成など大規模災害への適応力を高める様々な研修を実施しています。私達の町が災害に対する備えを充実し、安全・安心のために皆が協力する町でありたいと思います。

会 長 直島 秀守



# ボランティア講座



# 開催しました



1月24日に県社会福祉協議会 ボランティアセンター所長 辻 健一氏を講師にお招きし、役場コミュニティホールで平成29年度ボランティア講座を開催しました。区長・民生委員・喜界高校バスケットボール部合わせて77名の方にご参加頂きました。また、高校生のボランティア講座参加は初めてのことで講師の辻氏、参加者の皆さんから「若い人が参加してくれて頼もしい」との声がありました。

今回の講座では、まず炊き出し訓練としてハイゼックスという特殊な袋でお米を炊きました。その後「災害時のボランティア活動について」という内容で講演して頂き、災害時の心構えや対応方法について学ぶことができました。大規模災害はいつ起こるかわからないので、日頃からの備えについては継続して考えていけるようにしていきたいものです。

## いきいきサロンへ行ってみよう！

1月28日に朝のテレビ番組「健康カプセル元気の時間」の中で島内の元気なご長寿者が紹介され、いきいきサロンの様子も放映されました。ゲームや踊り、お喋りなど元気いっぱいな姿を見せてもらい、後日佐手久集落のサロン参加者から、「島外の島んちゅの方から反響の電話があった」とサロンに参加しての地域の繋がりを喜ぶ声を聞くことができました。



左：サロン風景

えとう窓口さんとの会話



現在いきいきサロンは、26集落で行っており、50代から90代、もう100歳に近い参加者の方もいます。趣味を見せ合う場であったり、料理を披露したり、お茶菓子を食べながらおしゃべりで盛り上がったり…と、皆さん月1回の集まりを楽しみにしています。自宅もいいですが、たまには身体を動かしませんか？参加は無料ですので、気軽にご参加下さい。

担当 藤元



# 赤十字奉仕団研修会を開催しました



平成29年2月23日に日本赤十字社鹿児島県支部から、濱田 龍氏と中村 雅俊氏を講師に招き、平成29年度赤十字奉仕団研修会を役場コミュニティホールで開催しました。

今回は、参加者34名で「災害エスノグラフィー」というグループワークを初めて行いました。グループワークでは災害発生時の体験者の声を元に作成された事例を読み、グループ内で①初めて知ったこと②既に知っていたこと③重要だと思ったことを伝え合いました。様々な

意見がでましたが、どのグループも共通してでた意見は、「災害発生時にご近所のたすけあいが必要」ということでした。今後は、社協の行う見守り声かけネットワークを活用し、移動困難者の把握を行うなど今回気付いたことを生かせるようにするとともに、研修に参加されてない方にも周知していけるようにしていきたいと思っています。ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。

## 学習支援『荒木やる気塾』

荒木集落では、平成27年11月から地元集落の教員OBや地域住民の方々によるボランティアで集落の小学生（13名）を対象に学習支援を実施しています。一斉下校となる月曜日（第1・3）にスクールバスを降りてそのまま荒木サロン（旧荒木幼稚園）へ。学習支援協力者5名の方により作成された100マス計算を実施して集中力を高めた後、各学年に合った問題集や、宿題に取り組んでいます。分からないところを指導ボランティアに教えてもらい、ときには友達同士で教えあっています。

3月25日には子どもたちと保護者、指導ボランティア、教育委員会指導主事の宇治野先生とでやる気塾についての連絡会を行いました。社協からも担当3名が出席し、学習支援事業の説明や今年度の実績を報告させて頂きました。宇治野先生の話しでは、家庭学習の在り方をについて、①子どもたちをやる気にさせる言葉かけ（ほめる＋注意＋ほめる＝サンドイッチ方式）②手をかけずに目をかける（見守りの姿勢）③家庭学習は親子で作り上げる（宿題に目を通し、ちょっとしたコメントをする）ことが重要だと教えて頂きました。

また、今年は荒木の方言を使った狂言『附子（ぶす）』への挑戦を考えているとのこと、先日中里公民館で行われたしまゆみた狂言のDVDを鑑賞し、子どもたちへの意欲付けと保護者への協力依頼がありました。荒木集落の子どもたちが演じるとどのような狂言になるのか今から楽しみです。



学習支援ボランティア

- ・晴永 清道氏
- ・登山 典壽氏
- ・碓山 典子氏
- ・作井 望氏
- ・作井 武俊氏

# 平成29年度共同募金報告

## 一般募金

## 歳末たすけあい募金

目標額	1,370,000円
実績額	1,293,100円

目標額	400,000円
実績額	384,986円

### 内訳 戸別募金(集落全世帯)

	1,178,000円
学校募金(小・中・高)	26,218円
法人募金	50,000円
職域募金・イベント募金	13,878円
その他	25,004円

### 内訳 街頭募金(12/21~12/25)

	297,431円
チャリティーゴルフ大会	78,684円
橋口商店	4,994円
アイショップ	2,751円
その他	1,126円

## ご協力いただいた皆さんありがとうございました

一般募金は次の事業の支援に活用されます。

- ・ボランティア育成活動事業・保健福祉ネットワーク事業
- ・社協だより発行
- ・民生委員児童委員協議会助成事業
- ・長寿会連合会活動助成事業・ゲートボール協会活動助成事業
- ・母子寡婦福祉会助成事業
- ・身体障害者協会育成事業
- ・子ども支援ネットワークめばえ活動助成事業

(法人募金)

★(株)峰山建設

(職域募金)

★大島支庁喜界事務所一同様

(イベント募金)

★災害ボランティア講座内募金箱



### 歳末たすけあい募金

募金額384,986円を町内在宅の寝たきりの方26名にオムツ代として、1人当たり金額14,800円を配分しました。(残額186円は、県共募に送金)

(街頭募金協力団体)

★町長寿会連合会

★町ゲートボール協会

★身体障害者協会

★喜界高校

★喜界中学校

★保護司会

★母子寡婦福祉会

★民生委員児童委員協議会

★地域女性団体連絡協議会

★はまゆり学園

★役場職員

(募金運動の場所を提供、協力店)

★A コープ喜界店

★ショッピングセンターふくり

★吉川商店

(喜界島おみやげセンター)

(募金箱設置協力店)

★アイショップ ★橋口商店



この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金が活用されています。